

地区だより

…………… 令和5年10月1日発行

ちゅうおう

<地区人口と世帯数>

男 18,840人 女 20,317人
計 39,157人
世帯数：20,884世帯
(9月1日現在)

2023

10月号

市からのお知らせ

【編集発行】

福島市役所広聴広報課
〒960-8601 福島市五老内町3-1
☎525-3710 ㊟536-9828

個性と魅力あふれる地域を目指します

～ふくしま共創のまちづくり計画推進懇談会(中央西地区)を開催～

地域の活動指針として策定された「ふくしま共創のまちづくり計画」を推進し、中央西地区が個性と魅力あふれる地域となることを目指して懇談会を開催しました。

中央西地区(三河台小学区)で活躍している方々が集まり、懇談会が主催する事業の方針や、地域コミュニティ等支援事業(市補助金)の活用を予定する団体の事業内容の確認などを行いました。

■問/地域共創課 ☎525-3731



▲8月28日にコラッセふくしまで開催した第1回懇談会

懇談会の主催事業について

主催事業の方針を「地元企業と連携したイベントを開催」することとして、参加対象者や地元企業の候補などについてアイデアを出したり意見交換を行いました。

今後、さらに事業の内容を検討し、実施につなげることとします。

活用予定の事業(地域コミュニティ支援事業)

活用を希望する団体	事業名	内容
三河台地区 青少年健全育成推進会	三河台地区 青少健だより発行事業	「青少健だより」を活用して、青少年の健全育成を地域ぐるみでの活動へ発展させる

中央東・中央西地区自治振興協議会を開催しました

各地区の委員と市長ほか市関係者が出席し、8月30日に中央東地区、8月31日に中央西地区の自治振興協議会を開催しました。

下記テーマについて協議を行った後、市長の市政説明に続いて市政や地区の課題などについて意見交換がなされました。

■問/地域共創課 ☎525-3731



中央東地区

協議テーマ

- ①私道の市道認定や環境整備について
- ②中央東地区内の歩道橋安全対策について



▲市長の市政説明の様子

中央西地区

協議テーマ

西児童公園のトイレ洋式化について



▲意見交換を行う様子

三河台学習センターからのお知らせ

【編集】福島市三河台学習センター
〒960-8055 福島市野田町七丁目1番42号
☎533-8330 ㊟533-8331

第40回 三河台地区文化祭 開催

芸術・文化の秋を迎え、第40回三河台地区文化祭を開催します。

今回は、4月12日開館した現在の三河台学習センターで最初の地区文化祭となります。

ぜひ、ご家族・お友達等お誘いあわせの上、ひとりでも多くのおみなさんのお来場をお待ちしております!!

◆と き：10月14日(土)・15日(日)

※展示作品は、10月15日(日)午後3時15分より順次撤収いたしますのでご注意ください。

◆と ころ：三河台学習センター

◆主 催：第40回三河台地区文化祭実行委員会
福島市三河台学習センター

◆内 容：

○作品展示部門

・絵画 ・絵手紙 ・書 ・俳句 ・切り絵 ・手芸 ・写真 ・その他

※児童・生徒・園児の作品の展示もあります。

○ステージ発表部門

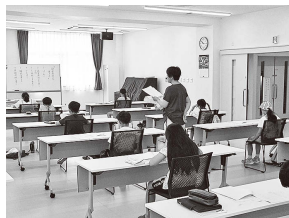
・園児お遊戯 ・演奏(大正琴、沖縄三線、ロックバンド) ・フラダンス ・その他

○内容の詳細は、三河台学習センターへお問い合わせいただくか、三河台学習センターHPで最新情報をご確認ください。(上記のQRコードで簡単にアクセスできます。)



『令和5年度『夏休み特別企画』開催報告』

三河台学習センターでは、7月と8月に「夏休み特別企画」ということで4つの教室を開催いたしました。57名の小学生に参加をいただきました。参加をいただいたみなさん、ありがとうございました。



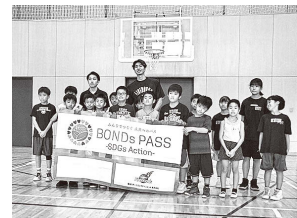
読書感想文の書き方教室



絵画教室



親子うどん打ち教室



バスケットボール教室

10月の行事予定

◇どじんじま道場

7日(土) 館外学習

◇ファミリー教室

2日(月) 親子遊び

◇寿大学

18日(水) 研修視察旅行～山形方面～

◇女性セミナー

12日(木) 文化祭の準備

26日(木) 調理実習

◇ゴルフ教室

6日(金) コースレッスン

◆三河台地区文化祭準備期間 7日(土)～13日(金)

◆第40回三河台地区文化祭 14日(土)～15日(日)



第22回三河台地区大運動会

○日 時 10月22日(日) 午前8時15分より開会式

○会 場 三河台小学校校庭

○主 催 三河台地区体育協会

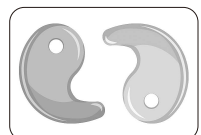
○共 催 三河台学習センター



コラム 三河台地区に眠る古代の大集落 勝口前畑遺跡 弥生時代⑩「勾玉の発見！」

勾玉とは、縄文時代から古墳時代に作られたC字状に加工された石製品です。ヒスイや水晶、またはそれに似た美しい石が選ばれ、ひもを通す穴があり、首飾りや頭飾りといった装身具として使われていたようです。但し、その特徴的な形から、単なる装身具ではなく、祭祀などに使用された儀式的道具であるともみられています。この形の起源については、耳飾りを半分に折ったものであるとか、胎児を表すなど様々な説があり、はっきりしませんが、もともとは獣の牙を模したものであるというのが最も有力な説です。他の土器や石器と比べると出土量は非常に少なく、またお墓や古墳から副葬品という形で見つかることが多いため、当時のムラの実力者(ムラオサや支配者)や、呪いを司るシャーマンが身に付けていたと推測されます。同様の形の玉は日本以外の周辺諸国からも見つかりますが、日本ほど多くなく、縄文時代から古墳時代まで、約5000年にわたり使用された地域は日本以外ありません。古墳時代前期ごろ(3世紀中ごろ)には、倭国(当時の日本)から晋(当時の中国にあった国の一つ)への貢ぎ物の一つとされており、倭国を象徴するものであったとみられます。

平成7年6月、区画整理に伴う勝口前畑遺跡の発掘調査中、担当職員は黒い土に緑色に光るとも小さな石のかけらがたくさん散らばっていることに気がきました。黒土を目の細かいざるで洗浄したところ、作りかけの勾玉や、材料の石、勾玉を作るときに使った砥石などの道具、勾玉を成形するときに出た石のくずなどがたくさん見つかりました。そうです、弥生時代の三河台地区では勾玉が作られていたのです。



(引用参考文献 『勾玉』2022 大田区郷土博物館)